令和８年度　　宮の原小学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】　豊かな人間性をもち，主体的・創造的に生きていくことができる健康でたくましい子どもの育成
【目指す子ども像】　・「自ら考え主体的に学ぶ子ども（本気で学べ)」
・「たくましい心と健やかな体をもち，元気でがんばれるこども（元気に遊べ)」
・「正しい判断力をもち，明るく思いやりのある心豊かな子ども（正しく生きよ)」
・「人や社会のために進んで働く子ども（喜んで働く)」

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人が自分のよさや可能性を伸ばせる学校，教職員が働きがいを実感できる学校，家庭や地域との連携・協働による地域とともにある学校づくりを目指す。
「学びのある学校」　豊かな体験を通して，自信をもち自立した子どもを育む学校
「活気ある学校」　心身ともに健康で，のびやかな子どもを育む学校
「笑顔いっぱいの学校」　友達と活動し，ともに生きる喜びを感じる学校
「地域とともにある学校」 家庭，地域と協働して子どもを育む，地域に開かれた学校

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に〇印を付ける。

(1)　知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を実践し，カリキュラムマネジメントにより学習効果の向上を図るとともに，本年度の重点目標について学校・保護者・地域が共有しながら特色ある教育活動「宮小けやきプラン 2026」を推進する。
(2)　全ての教職員が学校経営の理念に基づき目標を共有化し，自己研鑽に努めながら児童一人一人を大切にした教育活動を実践する。また，教職員が生き生きと健康で働きがいを実感できるよう，働き方改革の視点に立ち，リフレッシュウィーク等の勤務時間を意識した働き方の推進や業務の適正化を目指す。
(3)　地域協議会と連携しながら，地域教育力の積極的な活用と人材発掘，地域行事との連携，積極的な情報発信と学校公開等を通して家庭・地域と一体となった地域に根差した取組の充実を図り，地域とともにある学校づくりに努める。一条地域学校園（小中４校）の連携強化により，積極的な情報共有と児童生徒の実態に即した取組を通して小中一貫教育を推進する。
(4)　〇小中一貫教育の推進　小中４校の連携強化（積極的な情報共有）と児童生徒の実態に即した取組の推進

【一条地域学校園教育ビジョン】自己を見つめ，主体的に表現できる子供を育む一条地域学校園

４　教育課程編成の方針

（１）　教育基本法，学校教育法及び同施行規則，新小学校学習指導要領の示すところに従うとともに，「とちぎ教育ビジョン（2026－2030)」及び「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策」の趣旨に基づきながら，本校児童の実態を踏まえ，教育目標の具現化が図られるよう調和と統一のある教育課程を編成する。
（２）　本年度の経営方針，努力点や具体策，前年度活動の評価等を踏まえ，地域社会の実情・児童の心身の発達段階や特性・子どもの育成にかかわる多くの関係者の願いを考慮し，知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した特色ある教育活動「宮小けやきプラン 2026」を推進する。

５　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

【　学　校　運　営　】
・「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」を目指す子ども像として，全教職員が協働し活気ある学校づくりに努め「宮小けやきプラン 2026」を推進
〇「小中一貫教育と地域学校園」の取り組みの推進
【　学　習　指　導　】
・自分の思いや考えをもち，進んで伝え合い，学び合う児童の育成
【 児 童 生 徒 指 導】
・人とのかかわりを通して，きまりを守ったり人を思いやったりすることができる児童の育成
【 健康（体力・保健・食・安全)】
・自らの健康と安全に関心をもち，進んで体力づくりに励む児童の育成

６　自己評価　A1～A20は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　　価
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「私は，学習課題を解決するために，友達と話し合ったり，必要な情報を集めたりしながら，じっくり考え，進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 ８５%以上	・児童一人一人が自ら課題を見付け，主体的に学習に取り組めるよう工夫する。 ・個人の考えを深められる場面や進んで伝え合える場面の設定を意識したり，個人用パソコンを活用したりして，学び合いがより深まる取組を推進していく。 ・安心して発表できる，認め合い，励まし合う教室環境づくりに努める。		
１－（２）豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケートの「私は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している」。 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	・教育活動全般をとおして，思いやりの心の大切さを感じたり考えたりする機会を増やす。 ・日常生活の中で，児童の親切な行動を称賛したり，紹介したりしていくことで，思いやりのある行動の模範を示すとともに，よりよい人間関係の構築に努める。 ・異学年での活動やボランティア活動を推進していくことで，思いやりの心をもって協力し合う活動の充実を図っていく。		
	Ａ３　児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「私は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 ８５%以上	・学習や活動において，目標を明確にし，ゴールを意識させることで，児童が見通しをもって粘り強く取り組むことができるようにする。 ・キャリアファイル等を活用し，なりたい自分を意識させることで，自分のよさを伸ばしたり，粘り強く努力できたりするように，学校と家庭の両面から児童を励ましていく。 ・学び合う場や協力し合う場を意図的に設定し，共に高め合い，励まし合いながら取り組むことができるようにする。 ・定期的に目標を確認したり，振り返ったりする機会を設けるなど，継続して努力できるように励ましていく。		

1－（3）健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケートの「私は，健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	・養護教諭や学校栄養職員が保健指導や食育指導に積極的に関わったり，「食育だより」や「保健だより」を発行したりして，児童や保護者に健康についての意識付けを図る。 ・児童会活動を中心に健康や安全について呼び掛ける機会を設けるなど，児童が主体となって情報を収集・発信する機会を増やし，自分事としてとらえる活動を充実させる。 ・登校指導や下校指導に加え，定期的な班長による振り返りを行うなどして，継続的に安全な登下校の指導を行う。 ・地震・火災，不審者対応，竜巻等あらゆる災害を想定した避難訓練を行い，安全な生活の意識付けを図る。		
1－（4）将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　児童は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】】全体アンケートの「私は，自分の良さや考えを生かしたり，周りと協力し合ったりして，進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童の肯定的回答 ８５%以上	・学級活動や児童会活動を通して，生活をより良くするためにできることを考えたり，協力して活動する場面を設定したりする。 ・キャリアファイル等を活用し，自分の成長を見つめることで，段階的な成長を具体的に実感させる。		
2－（1）グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成する教育の推進	Ａ６　児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケートの「私は，外国語活動(英語）の授業やALTとの交流の際に，英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 ８５%以上	・一人一台端末を活用して，自分の考えを外国語で表現できるようにする。 ・スモールトークを積極的に活用し，教師と ALT のやり取りから教師と児童とのやり取りへとつなげていく授業づくりをする。 ・クラスルームイングリッシュを活用し，授業中の英語の割合を増やす。 ・授業以外の場面でも積極的に英語に触れる機会を設けるようにする。		
	Ａ７　児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケートの「私は，宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 ８５%以上	・生活科・社会科・総合的な学習における校外学習，地域人材との協力の中で，地域や宇都宮に興味がもてるよう学習を進める。 ・学習の成果を掲示したり，HP に掲載したりして．家庭にも発信する。 ・宇都宮市のイベントや行事などのお知らせを配付する際や給食の宮っ子ランチのときには，宇都宮の特色やよさを知らせるようにする。 ・宇都宮学の副読本を活用し，宇都宮の自然や交通，伝統文化に目を向けさせるようにする。		

2－（2）情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　児童は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケートの「私は，パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	・児童が一人一台端末や図書資料を効果的に使えるような授業展開に努め，児童が機器や図書に触れる機会を多く設定する。 ・一人一台端末を適切に活用し，教職員が ICT 機器等を授業の中で効果的に使用できる場を研究し，学習効果を高めていく。 ・国語や総合的な学習の時間などの調べ学習では，一人一台端末と図書双方の特性を理解し，内容に応じて活用できるよう支援していく。 ・発表や練習の様子・作品の撮影，デジタルドリルの活用，調べ学習，意見交換等こまめに繰り返し個人用パソコンを活用する。 ・図書資料やパソコンを活用している様子を HP や学年だより等で発信する。		
2－（3）持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　児童は,「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】全体アンケートの「私は,「持続可能な社会」について，関心をもっている。」⇒児童の肯定的回答 ８５%以上	・エコ・アクション委員会による，電力・水道水の節約の呼び掛けや古紙回収活動，給食委員会による牛乳パック回収を通して，身近にできるエコ活動を推進する。 ・栽培委員会の花壇の植え替え，児童会の落ち葉集めなどの活動を全校児童に周知することで，環境保全の意識を高めていく。 ・各教科の授業で環境や防災を意識した指導をしていく。 ・ESD（持続的な開発のための教育）のどの概念の理解を深めるものにつながるのかを，意識して指導する。 ・生活目標に SDGs の視点を取り入れる。		
3－（1）インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	Ａ10　教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケートの「教職員は，特別な支援を必要とする児童（生徒）の実態に応じて，適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 ９０%以上	・校内での実態調査や校内支援委員会で把握した児童のもつ課題について情報を共有するとともに，個別の支援を行う。児童の実態に応じて，かがやきルームや特別支援学級の利用も検討する。また，必要に応じて関係機関との連携を図る。 ・学習支援に関しては，朝の学習時間の活用や，習熟度別学習及びチームティーチングを行い，手厚い支援をしていく。		

３－（２） いじめ・不登校対策の充実	Ａ11　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は，いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	・いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し，事実の把握に努めると共に，いじめは許されない行為であることを徹底できるよう，いじめゼロ運動等の様々な機会を生かして，継続的な指導を行う。 ・道徳や学活の授業・SNS 出前講座などを通して情報モラルへの関心を高められるように指導を図っていく。 ・HP や学年だより等で取り組みについて積極的に情報を発信し，保護者への啓発を図っていく。		
	Ａ12　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は，一人一人を大切にし，児童（生徒）がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	・教師が中心となり，児童同士が認め合えるような機会や雰囲気づくりを心掛ける。また，学級の係活動や特別活動の中で自己有用感を感じられる場を設ける。 ・行き渋りなどの兆候が見られたときには,保護者との連絡を密にしたり,校内不登校対策委員会を開催し関係機関につないだりする。 ・学校キラリ賞の機会を活用し，学級学年内で互いのよさに気付き認め合う雰囲気づくりに努める。 ･HP や学年だより等で取り組みについて積極的に情報を発信する。		
３－（３） 外国人児童生徒等への適応支援の充実 ３－（４） 多様な教育的ニーズへの対応の強化	Ａ13　学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は，困ったときに相談に乗ってくれたり，問題を解決しようとしたりして，私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	・なかよしタイム等の縦割り班活動~~の発実。~~や児童会主体のあいさつ運動，特別活動や学校行事を通して，明るく互いのよさを認め合える雰囲気づくりに努める。 ・児童の日々の様子に気を配ったり，教育相談の機会を活用したりしながら，きめ細やかな支援に努める。 ・HP や学年だより等で子どもたちが生き生きと活動している様子を積極的に発信する。		

４－（１） 教職員の資質・能力の向上	Ａ14　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は，勉強を分かりやすく，一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 ８５%以上	・全校体制で，課題の明確な提示や分かりやすい発問・板書を工夫し，児童一人一人が分かる授業を目指す。 ・授業の中で，ペア学習やグループ学習，話し合い，ホワイトボード，一人一台端末などを活用し，児童の主体的・対話的な活動を効果的に取り入れる。 ・ICT の有効活用や少人数指導・習熟度別学習の充実を図りながら，個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせた授業づくりを推進していく。 ・授業研究を行い，児童の実態に即した内容の指導方法の工夫を行う。(一人一授業，学校課題の研究等) ・個に応じた指導により，基礎基本の定着を図る。(ステップアップタイム，家庭学習強化週間)		
４－（２） チーム力の向上	Ａ15　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 ９０%以上	・校務分掌や学習指導，児童指導等において，ＯＪＴを促進し，若手教員の育成を図る。 ・個々の役割と責任を明確にした上で,同僚に対する気配りをしながら,相互に協力して業務を行う。 ・学級経営や校務分掌などで，心配や困ったことがあるときには，周囲に相談したり，心配や困りごとを抱えている同僚には，周囲から声を掛けたりし，皆で早期に改善を図る。		
４－（３） 学校における働き方改革の推進	Ａ16　勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「私は，教職員の勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 ８５%以上	・校内掲示板を活用した事務連絡，会議資料のデジタル化等，業務の見直しを図り，全体の効率化を目指す。 ・打合せや会議の内容を精選したり，関係者と事前に相談したりして回数・時間の削減を図る。 ・毎月リフレッシュウィークを設定し，優先順位を決めて業務に取り組むなど意識付けを図る。		

	Ａ17　児童と向き合う時間を確保できている。 【数値指標】全体アンケートの「私は，児童生徒と向き合う時間を確保できている。」 ⇒教職員の肯定的回答 ８５%以上	・教材を蓄積したり，学年間で共有したりするなど，教材研究の効率化を図る。 ・業務の精選を図るとともに，優先順位を決めて業務に取り組む意識付けを図る。 ・教員業務支援員を有効に活用することで，直接児童と関わる業務を行う時間を増やしていく。		
５－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ18　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は，児童生徒や教職員の交流，小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 ８５%以上	○地域や学校園と連携した「小中一貫の日あいさつ運動」を継続して行い、さらに年２回小中合同実施を推進する。 ・クリーンアップキャンペーンに，地域住民や保護者が来校し，小学生とともに校庭清掃を実施する。 ○学習や体力の向上，図書館教育，食育（学校園統一献立），児童生徒指導（いじめゼロポスター掲示）など様々な領域において学校園で取り組んでいることを児童に還元し，周知に努める		
５－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 ５－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	Ａ19　学校は，家庭・地域・企業等と連携･協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 ８５%以上	・地域コーディネーターを活用して，教育活動全般にわたり協力を得られる人材を増やしたり，学校園で協力して人材確保に努めたりする。 ・企業の出前講座等を積極的に行ったり，地域人材の参画を得た授業を行ったりし，地域の教育力をさらに学校に取り入れていくとともに，各種便りや HP で取り組みを発信していく。		
６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ20　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 ９０%以上	・教職員による校内施設等の定期的な安全点検を行い，結果の共通理解を図るとともに，不備な点は早急に対処する。 ・校内や学校周辺で危険が予想されるときには，さくら連絡網やホームページ，学校だより等により周知を図るとともに，安全に対する取組を積極的に発信する。		

６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ21　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】全体アンケートの「私は，授業（授業準備を含む）や業務に，デジタル（一人一台端末，学校用グループウェア，校務支援システム，デジタル連絡ツールなど）を積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答 ８５%以上	・~~ＩＣＴ機器を学習内容に応じて活用しやすいように整備する。~~ ・~~授業の工夫を図るため，ICT 支援員を活用する。~~ ・ＩＣＴ機器を児童や教師のニーズ，学習内容や発達段階に応じて活用しやすいように整備していく。 ・一人一段端末端末の授業内での活用を図り，日常的に使用できるようにするとともに，授業の工夫を図るため，ＩＣＴ支援員を活用する。 ・ミライムの掲示板やメッセージ，アンケート機能等を，校務に活用していくとともに，効果的な AI の活用を検討・推進していく。		
小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ１　児童は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケートの「私は，時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	○家庭・地域と連携した「みやのはらあいさつ運動」を継続し，あいさつの定着を図る。（「みやのはらあいさつの日」毎月１日）また，地域学校園で共通する目標を設定し，小中一貫した「あいさつ運動」を推進する。 ・教職員が率先してあいさつをする。 ・道徳や特別活動を中心に，発達段階に応じて，時間や相手に応じたあいさつを具体的に指導する。 ・代表委員会だけでなく，児童が主体的に参加できる「あいさつ運動」を実施し，意識を高めるようにする。 ・あいさつ標語の募集をとおして，家庭や地域と連携したあいさつの推進を行う。		
	Ｂ２　児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】全体アンケートの「私は，きまりやマナーをを守って，生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	・「宮小３つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し，共通理解を図りながら望ましい行動習慣の形成に努める。 ・生活目標について全職員で共通理解しながら，継続的に指導する。児童が個人用パソコンを使って，自分の生活を振り返る機会を設けたり，他の児童に広げたりする活動を行う。 ・生活目標について，児童会を中心にきまりやマナーについて呼び掛ける期間を設ける。		

	Ｂ３「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用し，学校経営の充実を図る。 【数値指標】全体アンケートの「学校は，学校で課題となっていることを積極的に説明し，協議会の意見を反映している。」 ⇒地域住民の肯定的回答 ９０%以上	・学校の現状や課題となっていることを地域協議会の場で説明し，そこでの意見を反映するとともに，課題を共有して課題解決にあたる。 ・地域協議会を中心に，地域人材を効果的に活用した学校行事や授業を実施し，学校教育の充実に努める。		
	Ｂ４児童は，学校生活の中で，係や当番・清掃・仕事などの活動に進んで取り組んでいる。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは，お手伝いや係の仕事，ボランティア活動などをしている」 ⇒児童の肯定的回答 ９０%以上	・ボランティア活動について，児童会が主体となって呼び掛けたり，活動の様子を学校だよりや学校ホームページ，児童会だよりなどの様々なツールで紹介したりして，意欲を高めたり，充実感を味わわせたりする。 ・道徳の時間などでボランティアの意義や助け合うことの大切さを教える。 ・係活動や当番活動，縦割り班活動を通して，働くことの意義を学び，達成感や喜びを味わわせる。		
	Ｂ５家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは，決められた宿題に取り組んだり，工夫して自主学習に取り組んだりしている。」 ⇒児童の肯定的回答 ８５%以上	・日々の学習内容の定着を図るために，児童の実態に合わせて宿題の内容を工夫したり，着実に取り組めるよう支援したりする。 ・家庭学習カレンダー＆振り返りカードを活用して宿題や音読，自主学習に継続的に取り組めるようにする。 ・学年ごとに，発達段階に応じた自主学習の内容と方法を具体的に示し指導する。 ・家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を，学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ，より一層の理解や協力を得られるように努める。 ・「家庭学習強化週間」を実施し，期間中の家庭学習カードに，児童が目標を設定して取組について振り返ったり，保護者のコメントをもらったりする欄を設け，取組の徹底・充実を図る。		

	Ｂ６児童は，本をよく読んでいる。 【数値指標】学校独自質問の「わたしは，本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 ８０％以上	・「本はともだちプロジェクト」の実践，家読（うちどく）の奨励等を通して，家庭読書の充実を図る。 ・読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する（学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援（読書コンシェルジュ）・学校のオアシスとしての環境づくり，蔵書の充実）。 ・多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。 ・読んだ本の感想を記録・蓄積し，共有する機会をつくることで，読書の幅を広げる。 ・水曜日朝に読書タイムを設定する。また，けやき読書週間中は，朝の学習を読書，家庭学習で読書の宿題を出し，集中して読書に取り組む。 ・学校ホームページに読書活動の様子をアップし，保護者や地域の方に取組が伝わるように発信していく。 ・個人用パソコンでの新刊紹介など，パソコンの活用が読書活動に結びつくような取り組みを行う。 ・読み聞かせボランティアの活動を，学校だよりやホームページで発信していく。		

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7　学校関係者評価

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。